

平成 2 9 年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育て、グローバル化社会に適応できる生徒を育成する。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

重点目標	1 主体的に学習に取り組む態度や学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る 2 基本的な生活習慣を確立させ、自主自律の精神を育て、生徒会活動や部活動を通して、協調性や社会性を高める 3 あらゆる機会に進路意識の高揚を図り、多様に変化する社会に適応できる生徒を育成する 4 地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、グローバル化先進校としての取り組みを進める
------	---

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 目 標		年 度 評 価（月 日 現 在）	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	
1	○新校舎の建築が始まり、教育活動スペースの制約が余儀なくされる中で、生徒の学習活動が効率よくそして満足できる内容となるように工夫する必要がある。学習環境の整備や生徒の安全確保、授業展開の改善に努め、生徒の意識向上に繋がるよう配慮が必要である。	教育活動スペースの縮小化への対応 学習意欲の向上と学習内容の定着	1 生徒の安全を確保する。 2 スペースの縮小化に対して適切な対応を取り、行事等に対する生徒の満足度を維持する。 3 工事業者と連絡を密に取り、注意事項など教職員間での共通理解をするとともに、生徒へ情報提供をしっかりと行う。 1 個別指導を充実させるため課業日の補習等を幅広く実施する。 2 グローバルスタディールームの利用の促進を通じて、自主学習に集中できるよう環境を整備する。	1 生徒が不便を感じずに学校生活を送れたかどうか。 2 行事後のアンケートで確認する。 3 工事業者との打合せを定期的に行う。 1 課業日の補習が計画的に行われているか。 2 グローバルスタディールームが年間を通じて有効に活用されているか。				
2	○生徒の多くは、明るく活発な様子であり、特に学校行事においては、積極的に取り組み、その成果を上げている。その反面、頭髪や服装の乱れ・朝の遅刻など、改善を要する生徒も見受けられる。そこで、公共のマナーやルールを生徒が自ら考え守れるように、指導する。 ○学校行事や部活動・委員会活動を通して、今まで積み上げてきた西高の伝統に、さらなる要素(全ての生徒は、「自ら考え、努力すれば」必ず主役となれる場面や機会)を加え、たくましく生きていける生徒を育てる。	基本的な生活習慣の確立と社会性を身につける 生徒のリーダーシップの育成と世界に貢献できる人格の形成	1 学校生活における、定められた時間やルールを守らせ、生活のリズムを整える。 2 無断欠席等があった場合は、必ずホームルーム担任が家庭と連絡をとり、状況を確認する。 3 登下校時のマナー(バス乗車状況、自転車の乗り方等)をより一層改善するために、バス乗車指導や交差点立哨指導を行う。 1 生徒会活動・学校行事を柱に、生徒一人ひとりが活発に活動できる機会を設け、自分の考えを述べ、他者の意見を聴き、お互いに協調しながら成果を出す経験を積ませる。 2 部活動においては、各部の状況に応じて、学校サイドが最大限のサポートを行い、その環境を整えて、活発な活動へと進めていく。 3 家庭および学校生活における悩みを抱えている生徒に対して、必要に応じて、学校職員(担任・部活動の顧問・学年主任・教科担当・進路担当等)やスクールカウンセラーによる面談を実施する。	1 遅刻指導や服装頭髪指導の対象者が、各学年において、前年度と比較し減少したか。 2 無断欠席等が無かったか、または、あっても、その都度、担任が家庭と連絡を取り合っていたか。 3 登下校時の交通事故が無く、近隣からのマナー違反についての苦情が無かったか。 1 全校生徒が取り組む学校行事をサンプルとし、その成果が満足度のいく内容であったか。そして、その満足度が90%を超えているか。 2 部活動が活発に行われ、学校内外において、部員一人ひとりが充実した内容と、その成果を収めたことを実感しているか。 3 必要に応じた面接指導が、適切に行われたか。				
3	○国公立大学や難関大学への進学者が増加傾向にあり、多くの生徒が上級学校への進学を目指して、計画的に取り組んでいる。しかし、中には具体的な取りかかりが遅れ、実力を発揮できない生徒もいる。そのため、早い段階からきめ細かい進路指導を繰り返し行い、進路意識の高揚を図る必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	1 オンライン予備校を1・2学年全員と3学年の希望者に導入し、生徒一人ひとりの実力と進路希望に合わせた対策講座を受講させる。 2 平日や長期休業中の補習に加え土曜進学セミナーを開講し、受験に特化した授業を受ける機会を設ける。 3 学習到達度テストや校外模試等を利用し、結果を分析することで、生徒の進路実現に向けた個別指導を充実させる。 4 センター試験対策講座を実施し、センター試験の受験を促進する。また、推薦入試等で進路が決定した生徒には、学力の向上を図るために各種検定試験を受験することも促す。	1 オンライン予備校を利用することによって家庭学習時間が増加したか。 2 補習及び土曜進学セミナーの参加者の割合が増加したか。 3 学習到達度テストや校外模試の結果を生徒の指導に役立てられたか。 4 センター試験や各種検定試験の受験者の割合が増加したか。				
4	○地域に根ざした学校にするため、HP等を充実させ情報を発信すると共に、学校行事等で地域住民と交流し、情報交換などをする必要がある。また、グローバル化先進校として、国際交流の機会を適切に設定してきたが、実際に海外の文化等を体験できる生徒の人数は少ない。	地域に根ざした学校づくりと国際社会へ開かれた学校づくりを推進	1 学校行事（文化祭等）に地域住民の方を招き、本校生徒の活動を見る機会を設ける。 2 随時HPを更新することで、本校の魅力を保護者や地域等に伝える。 3 海外研修の機会を活かしたり、校内での外国人との交流の機会を積極的に設けたりすることで、異文化交流を進める。	1 文化祭等における地域住民の参加者数が増加したか。 2 HPを随時更新し情報発信をすることができたか。 3 短期研修に関して、予定人数を超える参加希望者がいたか。また、留学生の派遣および受け入れが昨年度より増えたか。				

学校関係者評価
実施日 平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等